

令和7年度 府中市立府中第一中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・「聞くこと」の学習において、聞き取った内容を理解して説明すること。 ・文脈に即した漢字を読んだり書いたりすること。 ・「書くこと」の活動において、根拠を明確にしながら自分の考えを伝えること。	・交流活動の中でも班員の意見等をメモを取る習慣をつけさせ、ワールドカフェ方式に聞き取ったことを説明する学習を日常的に増やす。 ・既習漢字も含めた小テストを定期的に行う。 ・推敲の観点を明確にして、書いた文章を修正する時間を十分にとる。		
数学	①積極的に授業に取り組み、思考したり発言したりすることはでは得意であるが、基礎基本の定着に課題がある。 ②中学入学の時点で学力差がある。自分の不得意なところを把握し、少しずつ解決していく必要がある。	①授業の中で、既習事項の確認の時間を取り、自主的に取り組む課題（プリント・問題集）で基礎基本の定着を図る。また、分かる体験を数多くもたせ、自ら学習する意欲につなげる。 ②基礎クラスでは基本問題を行う時間を確保し、発展クラスでは発展的な問題を取り組ませる。グループ活動を取り入れ、複数の解き方を考えたり、その解き方を説明できるように指導していく。		
理科	・授業の振り返りの習慣がまだついておらず、学んだ内容が定着しきれていない。 ・実験方法を正しい手順で行うことに課題が見られる。	・振り返りシートの記入状況を確認し、授業内でフィードバックすることで学んだことを自分なりに振り返る習慣をつけさせる。 ・実験の詳しい資料を準備しクラスルームに投稿しタブレットを活用することで実験中に実験方法を確認できるようにする。		
社会	・積極的に話し合いを行ったり、自分の意見を発表すること ・単純暗記にならないように社会的事象を深く理解すること	・意見交換の場を多く設定し、自分なりの考えを持つことの大切さを実感する機会を増やす ・社会的事象の因果関係を深く考察する機会を増やす		
音楽	・授業規律が安定せず、学習への集中が途切れることがある。 ・自分の声に自信が持てず、積極的に発声できない生徒がいる。 ・発声や声の響きにばらつきが見られ、合唱や合奏における一体感が不足している。	・ルール確認や活動の見通し提示を徹底し、規律のある学習環境を整える。 ・発声練習中に一人ひとりが安心して声を出せる雰囲気をつくる。 ・パートごとの指導を充実させ、音の揃いと響きの統一を意識させていく。 ・相互に聴き合い、よい歌声や表現を認め合う活動を通して、表現力と協働性を高める。		
美術	・授業規律（チャイム着席、私語） ・描画材等、用具の基本的な扱い方 ・粘り強く制作に取り組む姿勢	対話的な活動を通して発想や構想の広がりを支援し、主体的に制作に取り組む態度を養う。また、教科書等やプロジェクターを活用した模範指導、きめ細かな机間指導を通じて、知識の深まりや技能の向上を図る。		
技術	①普通教室に比べ、物が多く、生徒の気が散りがちになる。 ②個人で行う作業が多く、進度に個人差が出る。 ③一つの机に複数の生徒で学ぶ教室形態である。	①授業の身に集中できる環境を作る。 ②ICT 機器等を活用し、個に応じた指導方法を講じる。また、放課後等に補習を行い、習熟度を保障する場を設ける。 ③班員で協力できる体制を確立する。		
家庭	○生活経験が乏しく、知識や技能の力の差が大きい。 ○日々の生活と学習したことを結びつけることに注目させる必要がある。 ○個人で裁縫などの作業を行う際作業スピードに個人差があるため、時間を持て余さないように課題を与える。	○相互が教えあえるような環境を作り、実習の中でみんなが経験できるような機会を設ける。 ○授業内で実習する機会を増やし、授業内で経験することで意識して生活できるように促す。 ○授業の内容の答えを生活から探す問いを出し、考えを手助けできるようところをける。		
保健体育	○自分の考えを表現する力が低下している。 ○体の使い方（調整力）が低い。	○ペア・グループ学習の機会を増やしていく。 ○コーディネーショントレーニングなどを、準備運動の時間に頻繁に取り入れていく。		
外国語	①小学校で学習した内容と関連づけ、音声中心から文字とのつながりに注目させる必要がある。 ②学習事項を定着させるべく、小テストや課題の提出を計画的に実施する。 ③スピーチ、対話等の様々な言語活動の時間の確保	①授業の常活動として単語の書き取りを行う。長期休暇の明けにスパーリングコンテストを行う。 ②単元ごと小テスト、試験前にノートやワーク点検を行い、基礎力の定着や学習の習慣化を目指す。 ③ICT 機器を活用した発表活動やデジタル教科書を活用しての学習活動をできるよう支援する。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第一中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・「話すこと」や「書くこと」の学習において、根拠や意見などを具体的に明示し、かつ説得力のある構成になるように工夫すること ・「読むこと」において、文書の言葉や表現を正しく理解し、それを根拠にして人物の心情や筆者の意見を理解すること ・「読むこと」において、読書を通じて自分の体験と比較したりしながら、自分の考えを広げたり深めたりし、それを文章などにまとめること	・思考ツールを活用しながら根拠・意見・理由付けを明確に持つ習慣を身に付けさせる。その上で、目的や相手に応じて、どのような構成が説得力を持たせるうえで効果的か考えさせる授業を行う。 ・じっくりと読み込む時間、話し合う時間などを授業内でできるだけ長く設ける。そのために ICT の活用などで授業の効率化を進める。 ・単元の終盤で、発問を工夫し、読み取ったことをもとに自分の考えと比べたり、考えを深めたりさせる。それを文章にまとめたり話し合ったりする活動を行う。		
数学	①授業では理解しているが、定期考査になるとなかなか点数につながらない現状がある。既習事項の定着と家庭学習の習慣化に課題がある。 ②他人の考えを取り入れ、より考えを深められる活動を増やす必要がある。	①授業の中で、既習事項の確認の時間を取り、自主的に取り組む課題（プリント・問題集）で内容の理解を深め、繰り返し演習問題等を行い、既習事項の定着を図る。家庭学習の習慣化は、分かる体験を数多くもたせ、自ら学習する意欲につなげ、自主学習をしやすいとする。 ②グループ活動を取り入れ、複数の解き方を考えたり、その解き方を説明できるように指導していく。授業で生徒が発言しやすい雰囲気をつくり、ICT 機器を活用した効果的な協働学習を行う。		
理科	・実験・観察をすることに意識を多く割いてしまい、得られる学びが薄くなってしまっている。 ・観察・実験を伴わない授業が単調になり、学習内容の定着度が明確になっていない。 ・欠席した生徒への対応が十分に図れていない。	・実験・観察でのねらいを明示し、予想や仮説を立てる時間を確保する。 ・自分の考えや意見を出しやすい環境をタブレット等を用いて整える。 ・タブレット中心の課題配布や授業展開で、振り返りやすいログを作る。		
社会	・社会的事象について自分の意見をもったり、他者と意見交換したりして表現すること。 ・自ら課題に向けて、見通しをもったり、振り返ったりして調整すること。 ・知識の習得等をするため、繰り返し取り組むことや粘り強く行う力を伸ばすこと。	・話し合いの時間を適宜行い、自分の意見と他者の意見を共有、比較する場面を設定する。 ・単元を見通して、1 時間毎の振り返りを行う場面を設定する。 ・ワークシートを工夫し、反復的に学習に取り組めるようにしていく。		
音楽	・積極的に指揮や伴奏を希望し、演奏への意見を言える生徒も増えてはきたが、偏りがあること。 ・変声の時期でもあり、積極的に活動することをためらう生徒もいること。 ・音楽記号や音符休符の長さなど基本的な知識の定着という点で個人差があること。	・パート練習など小集団の中で意見を交換する機会を増やし、意見を伝えることのできる機会を増やす。 ・個々に声を掛けたり、振り返りシートにアドバイスを書くことによって自信を持って活動できるようにする。 ・曲を学習する中で音楽記号などが曲の表現に不可欠であることを理解させ、表現していく中で定着させていく。		
美術	・丁寧な作品制作 ・発想や構想の深まり ・相互評価の視点	対話的な活動を通じて発想や構想の深まりを促進し、他者を参照して自分を見つめ直す視点をもたせる。また、動画や教科書等の参考資料を用いて具体的な技能の指導を行い、本人が表したい表現が実現できるように支援する。		
技術	①普通教室に比べ、物が多く、生徒の気が散りがちになる。 ②個人で行う作業が多く、進度に個人差が出る。 ③一つの机に複数の生徒で学ぶ教室形態である。	①授業の身に集中できる環境を作る。 ②ICT 機器等を活用し、個に応じた指導方法を講じる。また、放課後等に補習を行い、習熟度を保障する場を設ける。 ③班員で協力できる体制を確立する。		
家庭	○生活経験が乏しく、知識や技能の力の差が大きい。 ○学習を生活に結びつけられている生徒と生活には結びついていない生徒の差が大きくなっている。 ○班で調理をする際、作業量に個人差が出る。	○相互が教えあえるような環境を作り、実習の中でみんなが経験できるような機会を設ける。 ○授業内で実習する機会を増やし、授業内で経験することで意識して生活できるように促す。 ○個別に声掛けを行う。事前に役割分担をさせ、その場での判断だけにならないようにする。		
保健体育	・授業への取り組みは意欲的だが、基礎体力・基本的な技能が身につけていない生徒が多い。 ・グループ学習やペアワークの対話から、自分の考えやアドバイスの表現が苦手の生徒が多い。	・ICT 活用など動画による達成目標を明確に示し、学習の見通しを立てさせ、意欲的に取り組ませる。【決定】 ・グループ学習を活用した授業展開と、課題解決に向けた視点を明確にして、教え合いの機会を多く取り入れる。【発見・対話】		
外国語	①家庭学習の習慣化と基礎学力の両面での個人差があり、差が大きくなってきている。 ②「書くこと」を苦手とする生徒が多い。 ③「話すこと」の機会が少ないため、意識して行わせ、スピーキングテスト等に対応出来るようにする。	①単元ごとや定期考査ごとに課題を課し、デジタル教科書を活用した家庭学習をできるよう、支援をする。 ②単元ごとに小テストや単語テストを定期的実施する。授業で「書く」活動を取り入れる。 ③ペア、グループでの表現活動を授業の中で意識的に取り入れ、ALT との対話を楽しむ機会をつくる。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第一中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	○「話すこと」の活動において、情報と情報との関係について理解して話すことを苦手としている生徒がいる。 ○「書くこと」の活動において、文章構成や表現の工夫を苦手としている生徒がいる。 ○漢字や文法などの基礎知識がしっかりと定着していない生徒がいる。	○ワークシートを用いて、思考を視覚化させ、意見と根拠の妥当性についてグループで検討する活動を重ねる。 ○グループで推敲したり検討したりする活動を重ねる。 ○小テストを定期的に行い、適切な支援を行う。		
数学	①観点「知識・技能」の評価は、高い傾向にあるが、「思考・判断・表現」の評価に課題がある。 ②他人の考えを取り入れ、より考えを深められる活動を増やす必要がある。 ③提出物や課題などの取り組みに個人差ができています。	①授業内で、「思考・判断・表現」を高められる課題を設定し、理解度の向上を図る。 ②授業の中でグループ活動や話し合いの場づくり、効果的な協働学習を行う ③課題などの採点基準を明確にし、B 以上の評価になるように指導を行う。		
理科	数式に関わる知識の定着が課題である。全国学力状況調査において、「電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる。」問題の正答率が低かった。	グループ学習を問題演習にも取り入れることで、お互いに学び合う環境を作り出す。そうすることで、知識の定着を図ると共に自己有用感が高まることを期待する。		
社会	・問いで問われていることを、資料をもとに把握すること ・事象を関連づけること	・既習事項から予測を立てられるように、単元の見通しの際に復習・予習の取り組みを行う。 ・公民分野においては、単元を通しての学習課題について、資料を用いた設定を行う。		
音楽	・楽曲の背景や表現意図への理解が浅く、雰囲気だけで歌ってしまう傾向がある。 ・パート練習においてリーダーシップを発揮する生徒が不足している。	・作曲者の意図や歌詞の意味、音楽的な構造を学習活動に取り込み、楽曲への理解を深めた上で表現に結びつける。 ・発声練習やパート練習での役割分担を明確にし、リーダー的役割を多くの生徒に経験させる。		
美術	・見通しをもった制作プラン ・取り組みへの粘り強さ ・相互評価の視点	ポートフォリオの活用によって、前回の振り返りを踏まえた目標設定を行い、自己の課題を解決していく習慣を身につけさせる。また、対話的な活動を通じて、自分自身の活動を客観視したり、他者の活動を参考にしたりする場面を設け、主体的に学習に取り組む態度を養う。		
技術	①普通教室に比べ、物が多く、生徒の気が散りがちになる。 ②個人で行う作業が多く、進度に個人差が出る。 ③一つの机に複数の生徒で学ぶ教室形態である。	①授業の身に集中できる環境を作る。 ②ICT 機器等を活用し、個に応じた指導方法を講じる。また、放課後等に補習を行い、習熟度を保障する場を設ける。 ③班員で協力できる体制を確立する。		
家庭	○生活経験に乏しく、知識や技能の力に差がある。 ○幼児・高齢者との接点がない生徒が多く、想像力に欠ける。 ○授業時間が少ないため、生活の中で学びを深められるよう問いを考えたい。	○学習内容と実生活を結びつける課題設定や問いかけを行い、実際に経験する機会を設ける。 ○映像資料の準備、介助体験などを取り入れ、幼児。高齢者の理解を図る。		
保健体育	・運動に対する興味・関心の二極化がみられ、授業への取り組みの個人差がある。 ・課題解決に向け、見通しを立て授業に取り組む力が弱い生徒が一定数いる。	・各単元において、ペア学習やグループ活動を通し、生徒同士が主体的に協力し、楽しみながら課題に向き合える活動を取り入れる。【対話】 ・授業のねらい、本時の課題を明確にし、その中で自らの課題解決に向けた取り組みを考えさせる。【発見・決定】		
外国語	①1、2年の学習内容の復習が必要な生徒、家庭学習の支援が必要な生徒がいる。 ②「書く」「話す」力をもっと伸ばしたい。 ③単元で学習したことだけでなく、これまでの知識を総合的に活用する力を伸ばしたい。	①文法のまとめを家庭学習の課題とする。授業内でデジタル教科書やワークの活用の仕方を学習する。 ②単元ごとに「書く活動」「話す活動」を取り入れる。 ③単元で学習した内容を中心に、これまで学習した内容を協同的に活用できるようなペアワークやグループワークなどの表現活動を行う。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない
で、2学期末、年度末に評価する。